

2022年度 訪日団感想文集

日中経済交流研究会主催

日程：2022年12月2日～12月3日

訪日団案内更新 (12/2) .pdf - Adobe Acrobat Reader (64-bit)
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 署名(S) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

ホーム ツール 訪日団案内更新... x

☰ ☆ ↺ 📄 🖨 🔍 ⬆ ⬇ 1 / 1 🗨 ✍ ✂ 🗑 ↻

📄 📎 📂

初心者も、エキスパートも海外進出について共に学んでいます  大阪府中小企業家同友会

日中経済交流研究会
訪日団
in 神戸

日中国交正常化50周年の本年は
日本三大中華街の一つで関西最大の
神戸南京町

神戸華僑のルーツや歴史・華僑経営者から学ぶ
これからの日中のあり方

2022年12月2日(金)～3日(土)

| | |
|--------|---------------------------------|
| 参加費 | 30,000円(税込) ※ホテル宿泊・3食付き・バス移動費込み |
| 募集人数 | 30名(先着順) 最小催行人数 20名 |
| 参加申込締切 | 2022年11月15日(火) |



6°C 晴れのちくもり

🔍 検索

📱 🗨 📧 📄 📂 📁 📅 📆 📇 📈 📉 📊 📋 📌 📍 📎 📏 📐 📑 📒 📓 📔 📕 📖 📗 📘 📙 📚 📛 📜 📝 📞 📟 📠 📡 📢 📣 📤 📥 📦 📧 📨 📩 📪 📫 📬 📭 📮 📯 📰 📱 📲 📳 📴 📵 📶 📷 📸 📹 📺 📻 📼 📽 📾 📿

2022 訪日団に参加して

株式会社廣記商工の山下前社長の「おはようございます」という明るく元気で爽やかな挨拶で訪日団は始まりました。これを聞いた瞬間、事務所に入った時の社員の元気な挨拶の理由と廣記商工さんの社風が理解できました。

その根本が、山下前社長が手に持つ事業計画書です。さすがにこれを全社員が全文書き写すということは困難なことに思いましたが、全社員に感想文じゃなく「で、どうするの？」という回答を求める姿勢には心を打ちぬかれました。

80年代前半、神戸で密な青春を過ごした私ですが、当時の南京町の記憶はありません。曹社長がおっしゃった通り、70年代後半の朝ドラ「風見鶏」で異人館通りは有名観光地になったのは実感していました。当時の友人に連絡とったところ、「元町の高架下や大丸の記憶はあるけど、当時の南京町はなあ」という反応でした。その記憶が正しければ、この40年間で、震災や新型コロナ禍を乗り越えて今があるのだなと思いました。常に前を向いて南京町をリードされた華僑の皆様を尊敬するほかありません。

孫文記念館は以前数度訪問したことがありました。今回は展示品を丁寧に説明していただき、なんとなく眺めていた昔が情けなく思いました。影とひなたはあるにしろ、日中間に未来志向があったことを学ぶことができました。ただ、「宋家三姉妹」に触れられなかったのは少し残念でした

「で、どうするの？」を、うちの父親の言葉に直すと「そんで、お前はどうしたいんや」ということでしょう。神戸で大学時代をおくり東京で就職。時期はバブル経済。クライアントは大手広告代理店や音楽産業。そこで学んだ？ことをもって鼻高々で大山印刷へ戻った時でした。バブル期の大手相手の営業ときっちりとした生産体制が整っていた就職先の印刷会社がすべてだと思っていた私を叩きのめした言葉でした。あれから40年近く。いまだに感想文しか書けない、何もできなかったのかもと思うと、ぞっとしてしまいました。

大山印刷株式会社
代表取締役 大山 武久
2022/12/18

日中経済交流研究会 訪日団 i n 神戸 の感想文

(株) カナツ加工 金津智俊

訪中団の谷本団長、訪中委員のメンバーの皆様、ありがとうございました。

いつもは、何気なく遊びに行ってた、神戸の南京町、舞子など新たな発見をさせていただきました。

集合時間を 1 時間間違えて、朝 8 時に難波についてしまい確認不足を反省いたしました。第 1 の会社訪問、株式会社 廣記商会 本社、皆さん大変細かく説明していただきました。商品の ウエイパーが我が家にもありまして家内がよく料理に使っているそうでした。それ程身近な商品とは知らずに説明を聞いていたことが勉強不足でした。

南京町 老祥記での豚饅物語では、豚饅の発症が南京町、老祥記だそうで新発見をさせていただきました、南京町の名前のゆかりや歴史を勉強させていただきました、大変良い経験をさせていただきました、次回南京町へ行くことがあれば、老祥記様の店に並んで購入してきます、

全国旅行支援のおかげで、とても安く宿泊をさせて頂き委員会のメンバーの皆様手続きありがとうございました。

孫文記念館、姫路城とても良い思い出になりました、

本当に、ありがとうございました。

近くでも知らなかった神戸（訪日団・感想文）

坂元鋼材株式会社 坂元正三

大阪からすぐ隣の神戸。すぐ近くなのに知らなかった、深い学びでした。会員同士の愉快的な交流。「訪中団」の雰囲気そのままに味わえました。コロナ禍の困難な中、この企画を作り出して下さった訪中委員会、谷本委員長、本当に、ありがとうございました。

■ 企業成長の底にあった「目的」

赤い缶でおなじみの中華調味料「味覇（ウェイパー）」で有名な株式会社廣記商行。現会長の鮑悦初さんを30年間にわたって支えてこられた山下兼一・特別顧問にご登壇いただきました。

家族企業からいまの年商100億超に育てていったのが鮑会長。「悦びの創造」という企業理念にこだわり続け、社員を採用して教育し、いまの隆盛を築いてこられました。

「社員が幸せかどうか、そこがポイント。会社がいくら成長しても、社員が疲弊していたら意味がない。そんな会社はつぶしてしまえ。売り上げ・利益は手段。悦びの創造、それが目的」

鮑会長の人望が厚いため、経営不振の会社を引き受けてくれないか、という話がたくさん舞い込むそうです。客観的にみて厳しい商売でも、経営の目的にかなっていたらお引き受けされます。

「儲かるかどうか、ではなく企業理念の体現、悦んでもらえるかどうか。その視点から決断する。あとで悩むことはあるが、決めるのはその物差しだけ。だから決断も速い」

山下顧問は「日本人も華僑も違いはない。大切なのは人生観であり、生き方」と締めくくられました。

■ 地域・業界への貢献

「元祖・豚まん」で有名な株式会社老祥記の曹英生社長。南京町商店街振興組合の理事長として30年以上もこの町の発展に尽くしてこられた華僑を代表する経営者です。

「春節祭り」「ランタンフェスティバル」などを仕掛けて、南京町に観光客を呼び込みました。

ご商売の「豚まん」もまさに毎日行列が出来る人気ぶりです。シンプルな経営に徹し、豚まん一筋、現地での直販のみ。行列の過去最高記録は5時間半待ちだったそうです。

社員さんへの待遇もとても厚く、実際に聞いた数字は驚くほど高い給与・賞与水準でした。社員さんを大切にすることから「過去10年で辞めたのは1人だけ」とのこと。

■ 「大アジア主義」—— 孫文記念館

近代中国の父として中国大陸からも台湾からも尊敬される孫文は、神戸にも何度も足跡を残していました。死の直前に神戸で行った「大アジア主義」の演説を今回知り、とても感動しました。

「西洋は力で押さえつけようという文化ですが、アジアはともに仲良くしようという文化です。日本は西洋の力の文化も学んで強くなりましたが、これからは西洋の手先になるのか、アジアの守り手になるのか。日本の皆さんにはよく考えてほしい」

中国は第2次大戦、文革の混乱などを経て、いまや急速な経済発展を果たしました。孫文の描いた夢が実現したと言えるでしょう。しかし、いまの中国はアジアの脅威になりつつあるのではないかと。孫文が生きていたら、北京の指導者たちにどんな言葉を掛けるだろうか。そんなことを思いました。

訪日団感想

1泊2日の工程で、初日は社用と重なり企業訪問は叶いませんでしたが、2日目の孫文記念館では、渋沢栄一が活躍していた同じ時期に、中国の改革を行おうとしていた孫文氏がいたことを知り、1900年代はまさに日中共に近代国家へ向けた様々な取り組みがなされていたのだと感じました。記念館では「漫画でわかる・孫文物語」が100円で売られており、わかりやすくまとまっていたので購入しました。私はプラスワン委員長をさせてもらっているのですが、委員内で労使見解の翻訳を検討しています。そのヒントになりました。

日中は中国人経営者との接点が多いのは勿論ですが、今後はアジア諸国（チャイナプラスワン）の経営者ともかかわりが増えると考え、同友会の労使見解を英語以外の言葉でも翻訳してはどうか？と考えています。労使見解が日本の経営におけるバイブルとするならば、その理念に基づく経営者の考えを、ボーダレスに経営談義するためのツールになると考えるからです。

今回「漫画・孫文物語」をヒントに、労使見解の重要箇所を漫画でわかりやすく表現し、それを各国の言葉に翻訳すれば伝わりやすいのではないかと参考にしてみたいと思います。

その後の姫路城見学も一部の会員さんと食事をしながら日中の話をしたり、大阪に戻ってからも、そのまま解散ではなく、飲みニュケーションができました。

“家に着くまでが訪中団” まさに帰宅する直前まで、交流を深めることができ、多くの気づきや学びをもらえる時間となりました。

本来は中国（せめて香港など華僑の国々）に訪問できればベストですが、来年も参加したいと思える時間となりました。ありがとうございます。

株式会社エーディエフ 島本 敏

2022年訪日団 in 神戸 南京町

2年ぶりに開催をした訪日団！今年は神戸南京町を中心とした神戸華僑経営者から学ぶ、日中の今後のあり方ということで企画をしました。

株式会社廣記商行

中国料理などに使われる材料や調味料を製造・販売をされ、現在では全国展開をされている味覇(ウェイパ-)は身近な調味料です。経営者は華僑の方ですが、日本企業であり、信念や企業理念の大半は社員の幸福度を重視した内容でした。鮑会長と山下前社長の信頼関係が随所に垣間見え、経営陣が共通認識を持ち、理念に沿って動くことにより、社員の皆さんに伝えていく。簡単なようで出来ていないことが身近に多くあることを学びました。

元祖豚饅頭 老祥記

老祥記曹社長は南京町商店街振興組合の理事長を20年以上もされており、自社でも時代の流れでネット販売などで売上を伸ばすことは出来るのはわかっている、味へのこだわりで南京町の店舗でしか販売をしない強い信念と自信、地域との信頼関係がそうさせているのだと感じました。一番お忙しい午後からでも、経営者と交流ができるならと快くお受けいただき、当初の予定時間を超えて質疑の時間を取っていただきました。

今回2年ぶりに開催となった訪日団を企画しました。例会とはまた違い、テーマに沿った内容を丸2日間共にし、懇親をする！これが訪中団(訪日団)だなと素直に思いました。企画をする側としては訪問先の交渉をするのも難しくなっているのは感じて来ており、改めて当会の理念や当会ができた経緯などを、会外の方にも分かってもらえるよう、明確にする必要があると思います。結果的に内容のある企画になり、参加者だけではなく、参加できなかった方にも次回は参加したいと思っていただけるよう、伝えていければと思います。今回の一番の収穫は神戸華僑の方との出会いでした。今回だけでなく、これからもこのご縁をつなげていきたいと思っています。ありがとうございました。

株式会社エフエスカンパニー 谷本 優

2022 訪日団 神戸南京町

① 株式会社 廣記商行

「食」に関することを幅広く展開し、事業拡大。「繊細かつ大胆」

- ・「悦び」「幸せ」というしっかりとした理念を持ち、それを社員と共有するための活動を徹底し、メリハリの利いた「考える」社員教育を実施されていて、自身の再確認と新しい気づきがあった。

② 南京町 老祥記

「品質を保つため」にできたてに特化した経営。

- ・「人のため」だけでは続かないが「人の喜びは自分のため」という信念でいけば続けられる。地域貢献を考え南京町の発展と自社の発展に努めておられた。

③ 孫文記念館

普通では知りえなかった「中国と日本の過去からの関係」が垣間見えたことは勉強になった。

上記の二社は「幅広く」と「特化」と両極端な手段で経営、組織運営をされているが、どちらも「人の幸せは自分のため」「人の悦びは自分のため」と求めるものは同じ。目的が決まっていればボヤケなければ手段が違っても組織はうまくいく。そして過去の成り立ち・信念を理解していれば目的がボヤケる事もないと思う。

逆に言えばトップが過去の成り立ちや信念を理解していないから目的がボヤケて間違った手段で運営してしまう。

今回は「同友会活動は組織運営を学ぶ」ためだということが再確認できた訪問でした。

(株) 豊田製作所 豊田浩二

2022 年訪日団感想

株式会社電研社

野村明宏

株式会社廣記商行

鮑悦初会長を 30 年間にわたって支えてこられた山下兼一顧問の話は、熱をおびつつ非常に明快でありアツという間の時間だった。正に右肩上がりの業績は、「悦びの創造」という理念を有言実行された賜物だろう。社員さんが幸せであるからこそ、業績に反映される。

やはり理念はシンプルな方が伝わりやすのであろうか。

理念経営を掲げる我々にも良いお手本となった。

また、社員の皆さんがほぼ全員が挨拶していただいた事も「明るく元気にさわやかに」挨拶することの徹底ぶりも見習うべき点であった。また、鮑会長の幹部の皆さんや社員さんに接する時間が、とても長い様に感じられた。社員数が圧倒的に少ない私の方が、もっと社員に関わる頻度があって然るべしだろうと反省すべき点であった。

株式会社老祥記

社長の曹英生さんのお話もリアリティーにあふれるお話だった。

大きな昇給と賞与は「利益の再投資は、社員へ」ということなのだろう。

儲けたお金は、不動産などに再投資される方も多いと知りながらの社員さんへの還元はなかなかできないのではなかろうか？個人的には、今回のコロナの様な事態が起きた時のために、違う事業にも投資された方が社員さんを守るという点では、良い気もするが人それぞれだ。先の鮑悦初会長の「社員の悦び」を追求する点では共通しており、業績が安定して向上している事も共通している事から、社員の満足を獲得する事は、業績向上のキーなのだろう。見習うべき点である。

一つ気になったのは、神戸華僑総会の事務局長を 30 年にわたって務められていること。

ご自身で勉強になり楽しいと言われているのであれば、それをもっと他の方にも経験いただけるように、立場を譲っていくべきではないだろうか？と感じた。彼の功績は素晴らしと思うが、一人の人間が同じ役職に長く就くのは如何なものかと感じられた。

孫文記念館

世界第二位の GDP を誇るまでにもなった今の中国を、孫文さんが生きていたらどう思うだろうか？彼の功績があつての今であろうから悦びひとしおかもしれない。しかし、人権を大切にすると国とは言い難い国に、各地で演説を行ってきた政治家は何を思うだろうか？

中国は、2022 年の世界幸福度ランキングでは 100 位中 72 位。周辺国との摩擦も絶えない。やはり最後の言葉のとおり、「改革いまだ成らず」なのだろうかと思ひ深かった。

以上

2022/12/7

株式会社インフォグロース

米田 慎一（西支部所属）

2年ぶりに開催された訪日団に今回初めて訪中委員会メンバーとして参加しました。2年前の1会員として参加した訪日団とは違い、訪日団の企画から内容の調整そして当日の運営まで谷本訪中委員長をはじめ訪中委員会の先輩経営者の方々とご一緒させていただき、参加しただけでは得られない多くのことを経験し学ぶことができました。

特に1日目の午前に訪問させていただいた株式会社廣記商工。事前打合せで少しお話を聞いた鮑会長は会社を100億円企業に育てられていますが、それには絶対的に信頼できる山下特別顧問がいらっしゃったからこそできたのだと思いました。鮑会長が目指してられる企業理念『悦びの創造』、これを社内に浸透させることは容易ではないですが、山下特別顧問が代弁したり先頭に立って実践されてきたからこそ徐々に浸透してきて今の廣記商工があるのだと思いました。「社員が幸せでないなら会社は潰した方が良い」と考えられている鮑会長。『悦びの創造』は社員が“悦ぶ”ことだそうです。これは同友会の『労使見解』にある“社員は最高のパートナー”に通じるものがあると思いました。これを共有できている廣記商工、素晴らしい会社だと思いました。

このような鮑会長と山下特別顧問の絶対的な信頼関係を感じることができたのも訪中委員会メンバーとして準備から関わったからだと思います。会社を発展させるには信頼できるパートナーの存在が必須だと学んだ訪日団でした。

訪日団に参加して

弁護士法人法円坂法律事務所
弁護士 中島宏治

訪中委員会は、コロナにより訪中団を組めないという根源的な問題を抱え、2020年は訪日団という形で大阪同友会の会員企業の訪問を行うと共に、道頓堀ホテルに泊まってインバウンド・訪日ツアー客になった気分を味わえないかという企画を行いました。

2021年はコロナ感染者が増加したことから企業訪問を断念し、訪日団自体を中止することになりました。

2022年は、神戸華僑の方をご紹介いただき、神戸中心に南京町で食事をする、華僑の方の企業訪問をすることなどを計画しました。また、孫文記念館との伝手もあったことから、孫文記念館訪問も併せて企画しました。

以下、訪問先の感想を述べたいと思います。

1 株式会社廣記商行訪問

中華料理の調味料に使われる味覇(ウェイパー)で有名な企業ですが、実際に訪問してお話を聞いてみると、中国料理に使う材料、調味料、お酒などあらゆる商材を扱っていることがわかりました。個人的には、哈爾濱(ハルビン)ビールが倉庫に置いてあるのを見て、中国でしか見ることができないと思っていたので感動しました。

鮑会長は不在でしたが、右腕の山下さんから語られた会長の姿はとても印象的でした。経営指針書の存在や、創業期に会社が大事にしていたことを社員に徹底的に読ませていること(書かせていること)など、教えられることもたくさんありました。同友会で経営指針の大切さを学んでいる私たちだからこそ感じる報告だったと思います。

2 老祥記訪問

神戸南京町の中心の広場の一角にある豚まん「老祥記」三代目の曹さんのお話もとても興味深いものでした。街づくりという意味で、南京町という中華街をブランド化していくプロセス、街おこしイベントの仕掛け、多様性のある出店を歓迎しているところなど、普段何気なく訪れるだけでは分からない神戸中華街に隠された秘密をたくさん知ることができました。

また、豚まんを冷凍保存せずに店頭だけで販売するシンプルな形にこだわり、ここでしか買えないという商品コンセプトも、老舗の実力を感じました。

曹さんの人間の器の大きさも感じられ、経営者としても素晴らしいことを参加したみんなが感じたのではないかと思います。

3 孫文記念館訪問

孫文記念館は、明石海峡大橋のふもと、JR舞子駅近くの公園内にあります。もともと、神戸華僑である呉錦堂の別荘「松海別荘」を前身としており、その隣に八角三層の「移情閣」が別の場所にありましたが、明石海峡大橋の建設に伴い、その公園内に移転

しました。これが孫文記念館です。

訪問当日は、学芸員の蔣海波博士により、記念館に展示されている孫文の生涯、日本と孫文、神戸と孫文の関わり、記念館の特徴（「金唐紙」の展示や書など）についてご説明いただきました。

入館料も300円と安いですし、周辺景色も絶景ですので、ご興味ある方は是非訪れていただければと思います。

4 訪日団を振り返って

コロナによって今回も訪中団が組めませんでした。ピンチはチャンスとよく言ったもので、日本にいて中国を知る貴重な機会となりました。華僑の経営者も、日本の経営者と同じくしっかりと経営理念をもっている会社が成長するのだと感じると共に、細部にこだわり徹底することについて、非常に長けていることも感じました。今後も交流を続けていこうと思います。

次回こそは、訪中団を組めるかなあ。

以上

フセハツ工業株式会社
吉村篤

1. 企業視察 株式会社 廣記商行

中華調味料「味覇（ウェイパー）」で有名な廣記商行に行きました。

近年、世界的に注目を集めているヴィーガン（動物性由来のものを一切使わない）ウェイパーを商品化しているのには驚きました。鮑会長は「喜びの創造」を企業理念としており、社員と価値観の共有をあらゆる場で行っていることに感銘を受けました。

「仕事→志事」「人材→人財」「行動→考動」「頑張る→顔晴る」など、自社の価値観を独自の言葉で表現し、入社前から内定者が使用するよう徹底されていました。

また、以下の言葉が印象に残りました。

- ・物事のつながり、人とのつながりを大切に。結果は全て必然、結果は全てつながり。
- ・できるだけ気づく人になる。人に嫌われたら終わり。
- ・採用基準は、「明るく！元気に！さわやかに！」のできる人。あいさつのできる人。

2. 企業視察 南京町老祥記

元祖豚饅頭の老祥記に行きました。いつも長い行列が絶えない豚饅頭のお店です。何度か行列に並んで買ったことがあります。この日は並ばずに特別に3個セット（通常は10個か6個セット）を試食しました。小ぶりで皮がしっかりしており、味の効いた豚饅頭です。

戦後、外人BARが立ち並び、まともな飲食店が2件しかなく、治安も悪かった南京町を今のような神戸の観光スポットとして町を大きく作り変えたご苦労のお話を聞きました。

マスコミへの売り込みやイベントなどは行政の許可が出る前にとにかくやってしまうから始末書を書くなど、とにかくチャンス逃さない華僑の商魂逞しいお話でした。

また、阪神淡路大震災で半壊したときや、コロナ禍で観光客が皆無になったときを乗り越えてこられた経験のお話も聞きました。

3. 孫文記念館

ノスタルジックな八角堂がシンボルの孫文記念館移情閣に行きました。孫文と当時の神戸経済界の深い関係を知りました。中国革命の父、国父と呼ばれていることや、三民主義、大アジア主義くらいしか知らず、孫文のことは正直あまりよく知りませんでした。

中華人民共和国でも孫文の再評価が進んできていると言われていますが、現代中国を知る上で、中国革命の原点にいる孫文を学ぶ必要性を感じました。

以上